

令和4年度

地域医療学講座年報

—第14号—



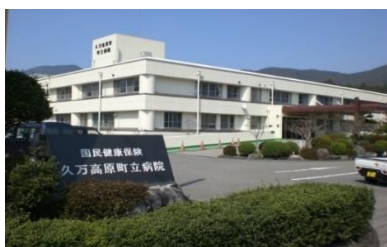
愛媛大学大学院医学系研究科地域医療学講座

〒791-0295 愛媛県東温市志津川

(代) TEL: 089-964-5111 FAX: 089-960-5131

地域医療実習施設

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 地域サテライトセンター



久万高原町立病院



西予市立野村病院



愛媛県立南宇和病院

地域サブセンター



宇和島市立津島病院

目 次

- あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・地域医療学講座 教授 川本 龍一・・・1
- 地域医療学講座の取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- 久万高原町サテライトセンターでの活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- 地域医療学講座寄稿 2022 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
- 第 12 回中四国地域医療フォーラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
- 学外講師による講義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
- 地域医療教育活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
- 地域医療学医科学研究学生の取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
- 2022 年度地域医療学講義内容 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
- 2022 年度地域医療ワークショップ（地域枠対象）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
- 地域病院オンライン見学ワークショップ、在宅生活支援実習・・・・・・・・・・・・15
- 第 5 学年臨床実習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
- 医学生サマーセミナー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
- 愛媛大学医学部附属病院総合診療科外来・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
- 愛媛大学医学部附属病院総合診療科専門研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
- 初期研修（地域医療）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
- 地域医療学講座大学院生卒業論文・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
- 業績・・25
- 講座関連の研究費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
- その他：教育活動・受賞・委員会活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
- マスコミ取材・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
- 編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42

あいさつ

地域医療学講座 教授 川本 龍一

今年も前年同様、新型コロナウイルスの流行による困難な一年でした。当講座も感染予防策を重視した診療・教育活動を強いられ、制約された活動もありましたが、全体的には順調に進めることができました。

地域医療実習では、久万高原町立病院、西予市立野村病院、愛媛県立南宇和病院、宇和島市立津島病院のスタッフの皆様には、日常業務の中で学生を快く受け入れていただき、この場を借りて心から感謝申し上げます。感染状況に合わせた実習の実施でしたが、学生たちはチーム医療と多職種連携を通じて地域医療の実践を学び、将来的な貢献が期待されます。地域枠の卒業生も次第に道後平野以外の地域に派遣され、各地で活躍しています。

地域枠の学生に対しては、週ごとのワークショップやサマーセミナーを通じて地域への関心を深め、サポートに努めています。今年も特に参加率の高い1年生には特に力を入れてワークショップを毎週開催しました。1年生はほぼ全員が、他の学年は半数が熱心に参加し、早い段階で経験を積むことができました。今後はこのワークショップを義務化すべきだと考えています。

大学附属病院では、7年前から総合診療科を担当し、教授2名と助教2名の4人チームで週5日の外来診療を行ってきました。対象は地域の医療機関からの初診患者です。新型コロナウイルスの流行状況により、紹介患者は増減していますが、継続患者は少しずつ増えています。多くの患者は既に複数の病院を受診し、自身の病状に納得していない方々です。総合診療は各科との連携を通じて経過を見守る役割も果たしています。

現在、当講座では地域住民のコホート研究や学生の地域志向性尺度開発の研究を継続しており、本年度も愛媛大学協働教育研究支援事業経費、人生100年時代づくり・地域創生ソフト事業交付金の予算を確保しました。講座には1名の社会人大学院生が所属し、地域の病院に勤務しながら臨床研究を行い、本年度無事卒業することができました。当大学では学部1年生の段階から研究科配属として希望する講座に所属し、研究活動を行う制度があります。今年度の当講座には1年生4名、2年生1名が所属しており、野村町や愛南町にて地域医療の現場で患者と関わりながら地域特有の調査を行いました。コロナ禍の影響で学外での活動が制限され、一年間はウェブ上での指導となりましたが、論文を仕上げることができました。その研究成果は日本プライマリ・ケア学会四国地方会で発表され、高い評価を受けました。

以上のような活動を通じて、私たちは愛媛の地域医療に微力ながら貢献し続けています。今後も教育・診療・研究などの様々な事業に取り組んでまいりますので、皆様からのご支援を心からお願い申し上げます。

地域医療学講座の取り組み

当講座は、地域医療支援センター、卒後臨床研修センター、各診療科等の学内組織、そして愛媛県や市町村、西予市地域サテライトセンター、久万高原町地域サテライトセンター、愛南町地域サテライトセンター、津島町地域サブセンター、地域医療機関等学外の関係機関と連携を図りながら「地域を舞台に学ぶ」をスローガンとして以下のような取り組みを行っています。

1 医学科学生教育

・学生教育

- 1年生：早期体験実習【必須】：地域枠担当
- 1年生：医科学研究：地域医療学講座基礎配属【必須】：4名
- 3年生：地域医療学講義【必須】27コマ：全員
社会と医療講義【必須】1コマ：全員
- 4年生：衛生学・公衆衛生学特別講義【必須】1コマ：全員
- 5年生：臨床実習（地域医療実習2週間、2021年11月～2023年3月）【必須】：全員
- 6年生：臨床実習（地域医療実習2～4週間）【選択】：久万・野村での希望なし
- 1～6年生：春季・夏季休暇期間中の地域医療合宿【希望】Web：7名

・学生教育支援

- 地域医療ワークショップ毎週木曜日昼休み（年16回）：地域枠
- 愛媛県主催医学生サマーセミナー（年1回）：地域枠＋自治医大学生＋他大学医学生
- 医学生による診療船 済生丸実習（年2回）：5月 5名参加
- 愛南町の医療にふれる会（年1回）：希望者 Web開催
- 多職種連携ワークショップ（年1回）：20名

2 医師のキャリア支援活動

- ・愛媛大学医学部附属病院 病院総合医専門研修プログラム：1名
- ・愛媛大学社会人大学院（地域医療学講座）：1名
- ・初期臨床研修 地域医療研修（西予市立野村病院内科）：6名

3 地域医療支援

- ・愛媛大学医学部附属病院総合診療科外来：毎日午前中
- ・西予市立野村病院・久万高原町立病院・愛媛医療センター・今治医師会立市民病院の診療支援
- ・同門会員の診療所支援
- ・講演会の開催：西予市多職種連携地域包括ケア研究会
- ・地域での講演活動

久万高原町サテライトセンターでの活動

地域医療学講座 准教授 徳本 良雄

2020年度から久万高原町立病院に設置されている久万高原町サテライトセンターを担当しています。

久万高原町は令和4年度4月1日時点で49.51%（前年同日 48.67%）と愛媛県で最も高齢化率が高い自治体です（県平均は33.26%）。特に75歳以上の後期高齢者率（人口比）は県内で唯一30%を超えています。当院は町内では最も松山側に位置しており、人的にも時間的にも町内全体を訪問診療等でカバーすることがなかなか困難であり、送迎サービスを中心に行っておりました。しかし、高齢化が進む中で通院困難な患者も増加してきており、訪問診療・看護についても拡充が進められています。

昨年末の大雪により、久万高原町は閉ざされた地域となってしまいました。報道されたように、停電、断水に加え、三坂道路など町外との交通手段が完全に分断され、薬、食事、暖房用の燃料など全ての供給が一晩で停止しました。患者様も来院することもできず、几帳面に内服していた方ほど、薬のストックがなくなり服薬できなくなりました。事務方、院長らと消防などとの調整で何とか必要な物品を確保するとともに、ご自宅に薬剤を送迎車で配送するなど何とかなりました。一定の残薬を手元においておく必要がありますが、薬が多めにあるとご高齢の患者様は重複して内服してしまうことも多く、高齢者に対する処方、服薬管理の難しさ、災害時医療への備えの必要性を改めて実感しています。

毎回のように学生の診察に応じてくださる患者様を始めとして、住民の皆様が暖かく学生を迎えてくださっています。中には離れて暮らしている孫、ひ孫らの姿と重ねて励ましてくださる方もいらっしゃいます。また、地域の医療機関には共通の問題かと思われませんが、人員不足に当院でも悩まされており、病院スタッフの負担が大きい中、時間を割いて学生の指導にあたっていただいています。このように、住民の皆様、病院スタッフのご厚意のもと実習を継続できております。地域実習の本質は、患者様を全人的に診ることで社会の中で生活の質を保つことができる方法を感じることで、メディカルスタッフの活動内容を肌で感じることで将来のチーム医療の実践に活かしていくことだと考えています。この場を借りて、学生の診察を快く受けていただいた患者様、ご家族、スタッフの皆様方に御礼申し上げます。

1. 週間予定

	午前	午後
月	<ul style="list-style-type: none">・オリエンテーション・院内案内、挨拶・外来実習（徳本）	<ul style="list-style-type: none">・外来実習（徳本）
火	<ul style="list-style-type: none">・地域連携講義（在宅支援センター）・内科外来（菊池先生/松木院長）・放射線科見学（臨床放射線技師）	<ul style="list-style-type: none">・父二峰診療所実習（近藤先生）・特別養護老人ホーム往診（松木院長） <p>（高齢者総合福祉施設久万の里）</p>

		<ul style="list-style-type: none"> 臨床検査室見学（臨床検査技師）
水	<ul style="list-style-type: none"> 地域消防・救急実習（久万高原町消防本部） 介護・デイケア実習（老人保健施設あけぼの） 	<ul style="list-style-type: none"> 訪問看護（地域連携室） 訪問診療（氏川先生） 採血実習
木	<ul style="list-style-type: none"> 血圧測定実習（病棟） 外来実習（古川先生） 	<ul style="list-style-type: none"> ケアマネージャー業務（在宅支援センター） 地域包括支援センター（在宅支援センター） リハビリテーション実習（リハビリテーション室）
金	<ul style="list-style-type: none"> 外来実習（徳本） スライド発表（徳本） 採血実習（内科外来看護師） 	<ul style="list-style-type: none"> 検体測定実習（臨床検査室） 実習まとめ（徳本）

2. 外来実習

外来実習は月・金は徳本が担当し、火曜は隔週で菊池明日香先生、木曜は古川慎哉先生が引き続き応援に来て下さっています。また、3月まで父二峰診療所では恩地森一先生に学生の指導をお願いしていましたが、退職されたため、変更となっています。

月曜・金曜の外来実習では初診、再診患者の問診、画像読影、結果説明などを学生が実際に行っています。下腿浮腫の触診、心音の聴取部位など、適切なフィジカルアセスメントを実施できない学生が多いような印象があります。結果説明に関しても初めてとの学生が多く、患者・家族が理解できるような平易な言葉を使用しているか、基準範囲と正常値の違いを理解しているかなどに注意しながら指導を行ない、時間があれば学生同士で診察の良かった点、改善が望まれる点について評価してもらうようにしています。

当院では、他の施設に比べると体験できる手技が少なめではありますが、なるべく基本的な医療行為を見て、体験させて、理解できるようにしています。なお、採血実習時に生化学の採血管をみせて、白い寒天状のもの（当然、分離剤ですが・・・）が何か聞くと、これまで全員が抗凝固剤か凝固剤と回答しており、その後の検査室での測定時に、実際に分離しているところを見てもらうことで学んでもらっています。

また、地域医療は、公衆衛生と切り離して考えることはできません。新聞離れが進んだこともあり、学生自身が社会、医療ニュースに触れることも少ないようです。なぜ後期高齢者医療制度がなぜできたのか、社保、国保との違いは何かということや、保健所と保健センターの違い、自治体の集団健診と会社の健診の違いなど多岐にわたります。自身の親、祖父母に当てはめるなどして、身近な問題として考えてもらうようにしています。

3. 実習課題

①実習レポート

実習を通じて感じたことをレポートにまとめてもらっています。実際の医療の現場を体験することで、様々な地域での医療への思いが生じているようです。このような体験が、愛媛の医療を支えていくモチベーションとなることを願っています。

②プライマリケアレポート

訪問診療などで体験した症例をプライマリ・ケアの視点からまとめてもらっています。介護保険などの社会保障制度の実際を初めて体験し、さらに高齢化社会における老老介護や独居生活の現実に少なからず衝撃をうけている学生が多く見られます。患者・家族を一人の人間として見る貴重な機会だと感じています。

③主訴からの鑑別 (Power point)

1つの症候について鑑別を中心したスライドをグループごとに作成してもらっています。取り上げられることの多いテーマは「胸痛」、「腹痛」などでしたが、最近、「全身倦怠感」や「咳」など様々な主訴を取り上げる班が増えてきています。「地域医療」において問診と検査をどのように進め、鑑別診断を行っていくかを疑似体験してもらうことが目的であり次のような設定で行っています。

具体的には、①久万高原町立病院の内科外来を受診する患者、②本人自身もしくは家族などの付き添いで受診（救急外来ではない）、③久万高原町でできる検査（当院では血液検査、心電図、X線、エコー、CT、内視鏡などでMRIは不可）の範囲内、④血圧などの基本的なバイタルサインなどは診察開始時点でスタッフが測定済み、といった内容です。その上で、OPQRSTやVINDICATE-Pなどの医療面接の手法を用いた問診、診察、検査を実施して、院内で治療が完結するか、救急搬送をするか、後日精査目的で紹介するかといった判断をしてもらっています。

学生にとっては、国家試験の禁忌肢やred flagなどの緊急性の高い疾患に目が行きやすいところですが、なるべくcommon diseaseを中心に、緊急性の高い疾患を見逃さないためにどうするかを考えるようにお願いしています。陽性所見だけでなく、陰性所見（特に疾患を否定できるような）も重要であること、また、文字だけではなく参考文献やイメージ図（例：Epley法の実施法）を積極的に入れてもらい、後日見直しても役に立つようなスライド作成を促しています。

地域医療学講座寄稿 2022

国保一本松病院副院長 嶋本 純也

2022年12月にインドネシアで開催された世界家庭医学会 WONCA Asia Pacific で Duke 大学の Dr.Viviana Martinez が “Identify and Health Equity” (健康の公平性の特定) の発表の中で、健康の公平性の達成に向けた進歩には健康の公平性の追求、健康の公平性の教育、個人の価値としての健康の公平性の3つが必要」と述べた。恵まれた日本の医療現場だけからは想像するのが難しいかも知れない。日本でも取り上げられるようになってきた「健康の社会的決定要因 Social Determinants of Health : SDH」に近い意味である。2003年に世界保健機関 (World Health Organization: WHO)が SDH として社会格差、ストレス、幼少期、社会的排除、労働、失業、ソーシャルサポート、依存、食品、交通の10種類が挙げられると提唱した。地域医療の視点から例を挙げてみる。

65歳以上人口が28.9%の高齢化社会となり変形性関節症、脳卒中、圧迫骨折、フレイル、サルコペニアなどにより歩行状態が悪化すると医療機関への受診に多くの時間、労力を必要となり交通手段の確保が困難になる。我々医療者は病院という「白い箱」で患者さんと呼ばれる人をただ待っているだけであり、その大変さの一部しか知り得ない。訪問診療をすることでSDHのうち交通や社会的サポートなど一部が理解できる。特に山村地域では大変な交通手段を何とか駆使して漸く病院たどり着けるわけである。

地域医療を担う若い世代にも是非知って欲しいもう一つの例がある。障害者施設(知的、身体障害)の嘱託医をしていると経験する。入居者の女性は本来であれば入居していない女性同様に40歳から2年に1回問診とマンモグラフィ検査(乳房エックス線検査)が推奨されるが、その身体的、知的なハンディーキャップにより乳がん検診を受けることができていないことがある。40歳以上の毎年の大腸がん検診についても同様である。これは上記の社会的排除、社会格差に当てはまるのではないだろうか。地域医療で総合診療をすることを目指す医師は、「臓器の専門家」ではいけない。「健康、そしてその社会的決定因子の専門家」である必要がある。

平成20年以降政府の方針として地域医療枠として医学部定員を増やしている。しかし2023年の今必要なことは、増えてくる地域医療を担う者が「地域医療を担う医師」という社会との契約として、その独占的に行う特権に加え、資格を有した「妥当性」を持っているか評価する尺度を策定していく事であると考えている。評価結果が、判定する資質や能力を示すものと一般化できるよう、根拠に基づき提示することが喫緊の問題である。2025年から医療法により施行される予定の「かかりつけ医機能」を担う地域医療枠の医師がそのプロフェッショナルリズムを有しているか「医師」の生みの親である「医学部」が責任を持って評価しなければいけない。しかし教育現場は大学から臨床現場へ移行しつつあり指導者が共通して上記のマインドを持って地域医療を繋いでいく必要がある。

第12回中四国地域医療フォーラム プレ集会 本会

このフォーラムは毎年、中四国各県の大学地域医療関連講座、地域医療支援センターが持ち回りで行っており、地域医療の諸問題、地域枠医師、学生のキャリア形成に係る情報交換を目的に行っています。今年度は新型コロナウイルス感染症の流行状況を鑑み、Zoomを利用したオンライン開催となりました。各県の大学、自治体、地域医療支援センターの教職員、地域枠医学生など80名が参加しました。

午前のプレ会議では中四国各大学の地域医療教員関連寄付講座の現状と課題に関する情報交換が行われ、各大学から今後の取り組みの参考になる話題が提供された。

午後からは主として各県の行政官あるいは地域医療支援センターの関係者からの発表が行われ、専門研修プログラム登録状況、専門医取得前後の配置方針、医師少数地域に地域枠医師を派遣することによって生じる効果や派遣を行うにあたっての障害など、発表者から各県の状況を詳細に説明いただき、それに対して活発な質疑が展開されました。

事例発表後は、島根県の地域枠医師2名から、専門研修の経過、今後の地域枠医師としてのキャリア展望などについて近況報告があり、多くの参加者から温かい反応がみられた。

最後の講演では、島根総合診療センター長の白石吉彦先生から、県が一体となってITCを活用しながら取り組む総合診療医養成の現状が分かりやすく解説された。

次回の中四国地域医療フォーラムは、高知大学を当番校として開催される予定である。

第12回中四国地域医療フォーラムプレ集会

日時：令和4年2月5日（土） 10:00～12:00

場 所：Web開催（Zoomでの開催）

※各大学代表者による8分間のプレゼンテーションをお願い致します

9:30	受付
10:00	開会挨拶 佐野 千晶（島根大学医学部 地域医療支援学講座 教授）
10:05 【05分】	各大学からの報告（発表8分、質疑応答2分） テーマ「地域医療関係講座の現状と課題」 座長：佐野 千晶（島根大学医学部 地域医療支援学講座 教授） ・ 吉藤 勝（岡山大学大学院医歯薬学域 地域医療人材育成講座 教授） ・ 浜田 紀史（鳥取大学医学部 地域医療学講座 准教授） ・ 松本 正俊（広島大学医学部 地域医療システム学 教授） ・ 前田 敏彦（山口大学医学部附属病院 医療人育成センター 助教）
10:45	休憩
10:50 【05分】	・ 山口 治隆（徳島大学大学院 総合診療医学分野 准教授） ・ 阿波谷 雄亮（高知大学医学部 家庭医療学講座 教授） ・ 川本 龍一（愛媛大学医学部 地域医療学講座 教授） ・ 佐野 千晶（島根大学医学部 地域医療支援学講座 教授）
11:30	全体討論
11:50	次回開催地についてお知らせ・閉会挨拶
12:00	閉会
	各自昼食および本会の受付
13:00	第12回 中四国地域医療フォーラムの開催

第12回 中四国地域医療フォーラム 本会

- 日時：令和4年2月5日（土） 13:00～16:30（受付：12:30～）
- 開催方法：オンライン会議（Zoom）
- 出席者：中四国各県の地域医療に関わる大学関係者、県行政担当者、地域医療支援センター職員、公立病院医務課、地域枠卒業医師、地域枠学生、ほか

◆プログラム◆

12:30	受付開始 ○ミーティングURL https://us02zoom.us/j/91962401733?pwd=RUlRbGp1aUlnbWpYVnVlZlZkVHVCZlZ09 ○ミーティングID: 859 6240 1733 ○パスコード: 312125
13:00	開会挨拶 司会：佐野 千晶（しまね地域医療支援センター事務局長） 小村 浩二（島根県健康福祉部長） 荒形 和義（島根大学医学部長）
13:10	各県からの事例紹介・報告（発表7分、質疑2分） 議題：「地域枠制度のこれまでの検証と今後より実効性のある制度とするための工夫及び取組について」 座長：小村 浩二（しまね地域医療支援センター副理事長） ① 山口県 宮崎 穂子（山口大学医学部附属病院 医療人育成センター 准教授） ② 高知県 船口 望（高知地域医療支援センター長） ③ 広島県 小西 謙典（広島県健康福祉局医療介護人材課 主査） ④ 愛媛県 藤井 雄士（愛媛県健康福祉局社会福祉医療局医療対策課 主事） ⑤ 岡山県 小川 弘子（岡山大学大学院医歯薬学域 地域医療人材育成講座 教授） 【休憩】 ⑥ 島川市 藤澤 峰（島川市健康福祉局医療保健課 課長補佐） ⑦ 島根県 佐野 千晶（島根大学医学部地域医療支援学講座 教授） ⑧ 徳島県 藤原 聖（徳島県地域医療支援センター 特任助教） ⑨ 鳥取県 福本 宗嗣（鳥取県地域医療支援センター 特命教授） ○まごめ/全体質疑
13:05	【休憩】
13:15	地域枠卒業医師からの近況報告（発表15分、質疑10分） 座長：船口 望作（島根県健康福祉局 医療統括監） 発表者：山口 祐典（島田市立中央病院 消化器内科） 『益田市の医療に携わって』
13:40	しまね総合診療センターからの事例報告（発表20分、質疑15分） 座長：同上 発表者：白石 浩彦（島根大学医学部附属病院 しまね総合診療センター長） 『しまね総合診療センターー virtual office構築とICU/URL, GP Net workー』
14:15	次回開催地挨拶 船口 望（高知地域医療支援センター長）
14:20	閉会挨拶 藤原 雄昭（しまね地域医療支援センター理事長）
14:30	閉会

学外講師による講義

「地域医療における病院運営と患者ケア」(2022年6月2日)

済生会松山病院 院長 宮岡 弘明先生

済生会松山病院での様々な取り組みについてご紹介いただきました。済生丸による離島医療については、毎年地域医療実習の一環として乗船させていただいていましたが、今年もコロナ禍にて中止になりました。離島である宇和海の釣島や八幡浜市大島での健康教室活動、宇和島市嘉島での出張診療をご紹介いただきました。さらには地域医療を担う医師養成として、総合診療のマインドを持った専門医を養成する取り組み、救急病院のメリットを生かしたローテート方式についてもご紹介いただきました。



病院運営と患者ケア
令和3年度愛媛大学医学部地域医療学
2021年12月17日



「Bangladeshでの医療活動」(2022年6月16日)

医療法人篤友会牧病院 宮川 眞一先生

先生は、子供の頃の岩村 昇先生との出会いやパキスタンでの中村医師との出会いが現在の活動につながっているとのことでした。MDGs (ミレニアム開発目標) から SDGs (持続可能な開発目標) へと世界が目標とする社会の在り方について詳しく説明していただきました。先生は、徳島大学医学部に入学、学生時代にBangladeshに赴き体験し、医学部卒業後は、海外での活動を目標に福岡徳洲会病院で研修、その後 JOCs 日本キリスト教海外医療協会に参加しBangladeshでの医療活動に従事されました。ダッカ人質テロ事件やロヒンギャ難民問題などについて貧困や格差、人種差別などが背景にあることをお話いただきました。



社会的企業(無担保で企業するソーシャルビジネス、マイクロクレジット)や社会的貢献(Table for Two)についても現地に赴かなくても可能な前向きな援助として紹介されました。盛たくさんの貴重なお話をいただきあっという間の1時間でした。

「地域医療について」(2022年11月25日 12:00~12:35、Web講義)

愛南町国保一本松病院副院長：嶋本 純也先生

地域卒1年生を対象として、自治医科大学を卒業され愛南町で活躍されている本学会会員でもある嶋本純也先生より「総合医について」のお話をいただきました。さらには、心筋梗塞患者の対応に関する実体験のビデオを元にその場での対応をわかりやすく説明していただきました。救急搬送の一部始終が患者さんの同意の下記録され、臨場感あふれるお話でした。予防から治療、リハビリテーション



まで住民の身近な存在として活動することの重要性を強調された。患者さんも外来で診るときの視診、それは呼び入れて診察室に入るときのしぐさ、服装、履物、顔色など多くの情報があり、それらが診断の参考にあることも話された。学生実習は年中受け入れており、いつでも歓迎とのことでした。

「家庭医による禁煙活動」(2022年12月9日、Web録画)

かとうクリニック院長 加藤 正隆先生

たばこは、ニコチン依存症を引き起こす病気であり、もたらされる害と影響の大きさについて、発症機序、それに対する具体的な取り組みについて海外の現状を交えながらわかりやすく講義していただきました。お忙しい中、PPTの録画を用意していただきました。最初の画面ではいつもと同様に全身を禁煙グッズで包み講義する姿が映し出され、先生の情熱が伝わる講義でした



「高齢者医療と福祉」(2022年12月16日、Web講義)

綾川町国民保健陶病院院長：大原 昌樹先生

大原先生ご自身が地域の第一線で取り組んでおられる多職種連携のなかでの地域をケアする取り組みについて具体的な事例を交えながらわかりやすく解説していただきました。在宅医療での看取りや終末期医療に関してや人生会議についての具体的な例などをわかりやすくお話いただきました。患者さんの背景や生活環境の把握の重要性、老健や特養施設の役割、在宅医療の醍醐味やメリット、患者さんとの交流を通して、地域で活動することの喜びや遣り甲斐などについてもお話いただきました。



愛媛大学医学部における地域医療教育

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	卒業後	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	初期地域医療研修
入門科目	正常構造と機能		疾患総論	疾患各論		診療の基本	診療の基本	社人大学院
正常構造と機能			病理各論系	医学・医療と社会				
早期体験実習			疾患各論	診療の基本				
地域医療マインドの滋養 ①プライマリ・ケア ②在宅医療実習 ③地域包括ケア実習 ④へき地・離島医療 ⑤診療所実習								
基礎配属	一般学生+地域枠							
地域医療ワークショップ	地域枠学生							
学生主催ワークショップ	一般学生							

4月 地域医療ワークショップ (令和4年5月から12月にかけて対面あるいはオンラインで約20回にわたり週に1回昼休みに開催)
対象：地域枠学生必須、一般学生選択
地域医療現場における保健・医療・福祉(介護)活動を学ぶ実習 (令和4年5月～令和5年3月実施)
対象：地域枠学生必須、一般学生必須 (4～5年次)

8月 サマージャーナ：東・中・南予代表地域の現状と課題に関するワークショップ (令和4年8月20日開催)
対象：地域枠学生必須、一般学生選択 (1～6年次)、自治医科大学愛媛県出身学生
対象：地域枠学生・一般学生選択 (1～5年次)
愛南町の医療を考える会
対象：地域枠学生・一般学生選択 (1～5年次)

9月 サテライトセンターでの地域医療体験合宿 (早期体験実習) (令和4年9月)
対象：地域枠学生必須、自治医科大学愛媛県出身学生必須 (1年次)
地域包括ケアワークショップ (令和4年9月)
対象：地域枠学生選択・一般学生選択 (1～6年次)

10月 地域病院見学バスツアー (令和4年9月および10月開催)
対象：地域枠学生選択・一般学生必須 (1～4年次)
地域医療の現場で活躍する医師による講演とワークショップ (オンラインで開催)
対象：地域枠学生必須、一般学生選択

3月

地域医療教育活動

西予市多職種連携地域包括ケア研究会

日本は、諸外国に例をみないスピードで高齢化が進行しています。65歳以上の人口は、現在3,500万人を超えており、2042年の約3,900万人でピークを迎えますが、その後も、75歳以上の人口割合は増加し続けることが予想されています。このような状況の中、団塊の世代が75歳以上となる2025年（令和7年）以降は、国民の医療や介護の需要が、さらに増加することが見込まれています。一方、西予市などの地方においては、既に超高齢社会は訪れており、都市部の10年先を歩んでいる状況です。

こうした状況下、厚生労働省においては、2025年（令和7年）を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進するように各市町村に求めています。下記のような事業を地域のサービス業者向けに実施しました。

西予市多職種連携地域包括ケア研究会（Web開催）

老人保健施設「つくし苑」の今後の展望（2022/01/25、西予市）

つくし苑介護福祉士：河野 昌子氏

心肺停止時の一次救命処置（Basic Life Support：BLS）（2022/02/09、西予市）

西予市消防士：平田救命救急士

地域で取り組む食事療法（2022/03/29、西予市）

西予市立野村病院管理栄養士：片山 雪江氏

地域における地域連携室の活動（2022/04/26、西予市）

西予市立野村病院地域連携室長：吉見 達雄氏

地域における病院ケアマネの活動（2022/06/01、西予市）

西予市立野村病院ケアマネージャー：渡辺 結花氏

地域医療における総合診療活動（2022/07/22、西予市）

西予市野村病院後期研修医：渡辺 亮先生

地域で取り組む心療内科（2022/08/31、西予市）

西予市野村病院看護師：大妻 ひとみ氏

地域で取り組むコロナ対策の現状（2022/09/21、西予市）

西予市野村病院副院長：大塚 伸之先生

地域で地域連携の現状（2022/10/16、西予市）

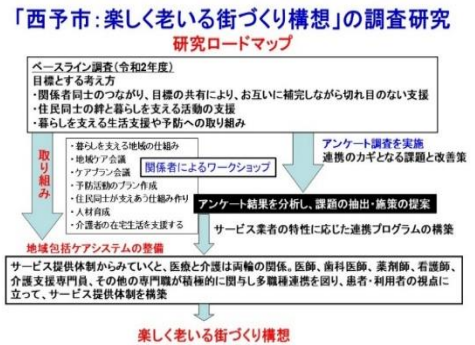
西予市民病院地域連携室：志賀氏

地域で取り組む褥瘡予防2（2022/11/30、西予市）

西予市野村病院看護師：小田原 恵氏

地域で取り組むフットケア（2022/12/21、西予市）

西予市野村病院看護師：小田原 恵氏



地域医療学医科学研究学生の取組み

1. 講座主任のこぼ

地域医療に関する研究は、地域医療の現場での体験が重要であり、その中でこそ地域医療の研究課題を描くことが可能となります。中山間地域や離島などへき地を多く抱える愛媛県においては、郡部や島嶼部を中心とした少子・高齢化の著しい進行や世帯構造の変化に伴い、疾病の複雑化、要介護者の増加及び生活習慣病の増加等、県民の保健・医療に対するニーズも多様化・複雑化しています。これら課題に対応するため、現地のニーズに即した地域医療に関する研究を行うことを目指しています。

2. 学生指導の担当者リスト

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 地域サテライトセンター

川本 龍一 (教授) e-mail: rykawamo@m.ehime-u.ac.jp

二宮 大輔 (助教) e-mail: ninomiya.daisuke.ad@ehime-u.ac.jp

菊池 明日香 (助教) e-mail: kikuchi.asuka.xo@ehime-u.ac.jp

〒797-1212 愛媛県西予市野村町野村 9-53 (西予市立野村病院)

TEL:0894-72-0180 FAX:0894-72-0938

徳本 良雄 (准教授) e-mail: tokumoto.yoshio.cc@ehime-u.ac.jp

〒791-1201 愛媛県上浮穴郡久万高原町久万 65 (久万高原町立病院)

TEL:0892-21-1120 FAX:0892-21-1121

連絡先

岡山 陽子 (秘書) e-mail: okayama.yoko.my@ehime-u.ac.jp

〒797-1212 愛媛県西予市野村町野村 9-53 (西予市立野村病院)

TEL:0894-72-0180 FAX:0894-72-0938

3. 研究室の研究内容

地域における健康維持、疾病分析、治療に関する臨床疫学的調査研究：愛媛県内の地域における臨床疫学的調査を実施し、効果的な手法の開発により地域社会の生活のレベルの向上と住民全体の QOL の向上を図る。

内容

限られた医療資源の中で診断・治療を行う必要があることから、以下のテーマ等についての調査研究を実施し、その成果を地域医療に還元する。

例・風邪などのありふれた健康問題に関する研究

- ・慢性的な症状に対する研究
- ・地域における保健・医療・福祉の連携に関する調査
- ・高齢化社会における課題に関する研究

方法

地域サテライトセンターを中心にフィールドワークを展開し研究にあたる。

4. 医科学研究学生への指導方針

愛媛大学医学部地域医療学講座地域サテライトセンターにて地域住民を対象とした地域医療実習を行いつつ、研究テーマについて現地のスタッフと共に調査研究を行う。

5. 学生の研究内容

- ・遠藤 萌
若い世代の人々の理想の看取りと死に関する意識調査
- ・山田 真由
都市部の地域医療における医師不足の検討
- ・大木元 穂香
喫煙歴有無による年代別予後の検討
- ・越智 綾乃
愛南町における産婦人科の現状：課題と対策
- ・吉見 和華
愛媛県における医師の偏在と解決策

6. 所属する医科学研究学生数（令和 5 年 1 月時点）

1 年生：4 名 2 年生：3 名

7. 所属学生による感想

地域医療に興味があり実際に現場を見て学びたいという思いから、大学の授業カリキュラムの一環である基礎配属で私たちは地域医療学講座に所属しています。総合診療医になるために必要な能力や勉強、医師に限らず医療従事者が不足している地域病院での多職種連携の重要性を強く感じました。一方で地域でも出来る事は多くあることを学び、そこで様々なワークショップやサテライトセンターを利用した Web 勉強会などを積極的に受け、地域に根付いた課題について各自テーマを持ち研究に取り組んでいます。

8. 医科学研究発表会演題リスト（2022/10/03）

- ・若い世代の人々の理想の看取りと死に関する意識調査
遠藤 萌

9. 研究成果リスト

第 22 回日本プライマリ・ケア連合学会四国支部総会（2022/11/20、徳島市）

- ・愛媛県内の医師の偏在と解決策 筆頭演者
吉見 和華、菊池 明日香、二宮 大輔、川本 龍一
- ・都市部の地域医療における医師不足の検討
山田 真由、菊池 明日香、二宮 大輔、川本 龍一、熊木 天児
- ・愛南町の妊婦さんにとって安全で快適な産科医療体制の確立
越智 綾乃、川本 龍一、菊池 明日香、二宮 大輔、徳本 良雄、熊木 天児
- ・喫煙歴有無による年代別予後の検討
大木元 穂香、川本 龍一、二宮 大輔、菊池 明日香、徳本 良雄、熊木 天児

2022 年度 地域医療学講義内容

	講義内容	担 当
	先端医療学	
6月2日(木)	地域医療の実践「病院運営と患者ケア」	学部内非常勤講師
6月16日(木)	地域医療の実践「バングラデシュでの医療活動」	非常勤講師
	後期課程 27コマ	
10月13日(木)	地域医療の理論「総合診療(家庭)医活動のマインド」	川 本
10月14日(金)	地域医療の理論「地域医療における解釈モデルの活用」	川 本
10月20日(木)	地域医療の理論「患者さんの視点」	菊 池(総合診療科)
10月21日(金)	地域医療の理論「ライフサイクルと健康」	二 宮
10月27日(木)	地域医療の理論「地域医療でのEBMとNBMの基礎」	川 本
11月4日(金)	地域医療の理論「地域医療における面接技法」	二 宮
11月10日(木)	地域医療の実践「地域医療でのEBMとNBMの実践」	川 本
11月17日(木)	地域医療の実践「地域における多職種との連携活動」	川 本
11月18日(金)	地域医療の実践「地域における医療資源の活用」	二 宮
11月24日(木)	地域医療の実践「総合医と専門医の役割」	徳 本
11月25日(金)	地域医療の実践「身体診察の基本」	菊 池(総合診療科)
12月1日(木)	地域医療の実践「地域医療での生活習慣病と行動変容」	川 本
12月2日(金)	地域医療の実践「コミュニケーション」	菊 池(総合診療科)
12月8日(木)	地域医療の実践「地域医療での予防医療活動」	川 本
12月9日(金)	地域医療の実践「家庭医による禁煙活動」	非常勤講師
12月15日(木)	地域医療の実践「在宅医療」	川 本
12月16日(金)	地域医療の実践「高齢者医療と福祉」	非常勤講師
12月22日(木)	地域医療の実践「地域医療における腹痛診療」	徳 本
12月23日(金)	地域医療の実践「日常病と臨床推論1」	菊 池(総合診療科)
1月12日(木)	地域医療の実践「在宅終末期医療」	川 本
1月13日(金)	地域医療の実践「日常病と臨床推論2」	二 宮
1月19日(木)	地域医療の実践「日常病と臨床推論3」	川 本
1月20日(金)	地域医療の実践「地域医療における研究活動」	川 本
1月26日(木)	地域医療の実践「日常病と臨床推論4」	徳 本
1月27日(金)	テスト	川 本



2022年度 地域医療ワークショップ（地域枠対象）

木曜日 12:05-12:55

実施日	対象	内容	人数
4月15日（金）	第171回：地域枠1年生	自己紹介	20
4月21日（木）	第172回：地域枠2年生	医師偏在を考える	15
4月28日（木）	第173回：地域枠3年生	愛媛の地域医療を担うために	10
5月6日（金）	第174回：地域枠1年生	愛媛の地域医療	20
5月12日（木）	第175回：地域枠4年生	臨床推論	6
5月19日（木）	第176回：地域枠2年生	医局について	15
5月27日（金）	第177回：地域枠1年生	地域を視る	20
6月9日（木）	第178回：地域枠3年生	日本の医療費	5
6月10日（金）	第179回：地域枠1年生	卒後のキャリア形成	18
6月16日（木）	第180回：地域枠4年生	地域で看取る	7
6月29日（水）	第181回：地域枠1年生	地域医療とは 担当(総合診療科：菊池)	16
6月30日（木）	第182回：地域枠2年生	地域をケアする	13
7月7日（木）	第183回：地域枠3年生	日本の医療費	8
7月8日（金）	第184回：地域枠1年生	地域における総合診療医としての役割	17
7月14日（木）	第185回：地域枠4年生	地域で看取る	8
7月21日（木）	第186回：地域枠2年生	日本における災害	13
10月6日（木）	第187回：地域枠2年生	地域で看取る	12
10月13日（木）	第188回：地域枠3年生	地域で看取る	8
10月14日（金）	第189回：地域枠1年生	卒後の配置とキャリア形成	15
10月28日（金）	第190回：地域枠1年生	地域をケアする（zoom）	16
11月10日（木）	第191回：地域枠2年生	少子高齢化を考える	10
11月25日（金）	第192回：地域枠1年生	地域に出るまでの不安だったこと、困ったこと、今思うこと（zoom）	16
12月1日（木）	第193回：地域枠3年生	日本における災害	9
12月8日（木）	第194回：地域枠2年生	生きて逝く	11



第 21 回地域病院オンライン見学ワークショップ (2022/05/20、東温市、Web)

地域医療支援センターでは、医学生を引率して地域病院を訪問している。見学や意見交換を行うことで将来地域医療を担う医師を目指す医学生に、早い段階から地域医療の実情に触れてもらうことが目的である。今回は新型コロナウイルスの感染状況が終息せず直接病院を訪問することが困難であるためオンラインで西予市立野村病院と結び、医学科 1～3 年生 16 人が参加して実施された。地域医療学講座西予市サテライトセンター(西予市立野村病院) 川本先生から、西予市立野村病院の紹介動画を上映とともに野村町のロケーションや人口、住民の年齢層などの説明に加え、病院の概要や役割、取組内容についての説明があった。その後、実際に川本先生自身の訪問診療の様子を撮影した動画を上映、道中や診察の様子、患者やご家族の様子などを詳細に説明された。続いて、菊池先生から多職種連携による患者のサポートについてロールプレイを交えての講義を行っていただいた。学生に役柄とシナリオを与え、家族役を演じてもらっての「家族会議」や医療に関わるさまざまな職種を演じてもらっての「多職種連携カンファレンス」を体験してもらった。参加した医学生は、川本先生から「患者の自宅を訪問することで、より多くの情報が得られる」ことを学び、菊池先生から「医療に関わる様々な職種が得ている情報を連携し、共有することの大切さ」を学ぶことができ、大いに刺激をうけたとのことであった。



愛媛大学医学部看護学科主催の在宅生活支援実習 (2022/09/05～09、西予市)

愛媛大学医学部看護学科主催の在宅療養支援実習が西予市野村町を舞台に実施された。日本は、諸外国に類をみないほどのスピードで超少子高齢・人口減少社会に突入し、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい人生を最後まで続けることができるよう医療・介護・予防・生活支援・住まいを包括的かつ継続的に提供する体制(地域包括ケアシステム)の構築が進められている。このような背景を踏まえ、愛媛大学医学部看護学科においては、2017年度より在宅生活支援実習を開始している。本実習では、何らかの健康問題を持ちながら地域で生活する人々との関わりを通して、地域包括ケアシステムの推進に向けた看護職の役割を学び、生活者を支える地域づくりや健康づくりに貢献できる看護職の育成を目指すことを目的としている。履修対象となる学生は、医学科、看護学科 1～3 年生である。学生は、在宅生活支援実習を通して【人間の暮らしと人間が生きることの体感と理解】、【地域の特性理解】、【地域で働く保健福祉職と住民との緊密な関係性】、【理論と実践の融合による大学で学習した知識の深化】、【医学生と看護学生の視点・意見の相違】、【地域で働く保健福祉職に対する具体的イメージの促進】などを学習した。



第5学年臨床実習

(2021/11/22 開始：5班～12班は2021年度実習済)

1班	阿部 花奈子	三好 杏佳	犬丸 崇	西尾 賢二	根来 大雅	
2班	酒井 愉未	高岡 凌太	玉井 遼平	宮内 春菜	鳥谷 英貴	
3班	大野 雄河	加藤 知輝	山田 純史	木上 侑香	松林 可那子	
4班	杉原 仁	地行 歩	弓場 大輔	阿部 日向子	吉川 綾音	
5班	太田 紗貴	山本 夏希	篠田 瑛	廣井 直也	矢部 智己	
6班	片山 真暉	田和 優佑	豊田 涼華	武井 健悟	西田 暁枝	
7班	中田 康仁	矢形 洸貴	近藤 均	片桐 晴子	高橋 杏奈	
8班	金杉 守	岸本 良	中西 琉音	大島 未麗	勝浦 万貴	
9班	江原 秀大	山口 聡允	吉川 大悟	大山 彩加	早瀬 絵里香	
10班	高木 弘毅	濱田 遼	三橋 慧	越智 ももこ	篠崎 舞子	
11班	井手 努	押川 輝	細川 隼登	小林 えれな	山根 未久	
12班	佐藤 信	富田 将太郎	正岡 幸史朗	坂川 七海	中村 伸子	
13班	松尾 佳南	三宅 琴音	黒光 弦也	杉本 大河	豊島 滉樹	
14班	藤原 峻太	宮里 柁輝	宮脇 凌	松田 宣完	久保 智香	山岡 愛
15班	伊藤 雅起	山岸 泰斗	久保田 桃香	松岡 菜悠	南方 優作	村岡 薫
16班	西谷 瑠乃	横手 宏昌	香川 大樹	竹田 梨花子	北村 建人	熊ノ郷 靖之
17班	荒川 祐妃	脇坂 輝	坂本 昂	服部 恵大	高木 亮斗	松本 虎汰郎
18班	近藤 史孟	神永 天	本田 智則	川口 千尋	中川 真利亜	
19班	蔭谷 岳明	森本 あさひ	永井 柚衣	真鍋 海	新谷 大貴	森 達彦
20班	泉谷 真由	中野 理珠	村上 絢菜	越智 夢乃進	中島 康太	古井 善之
21班	杉浦 悠太	高田 潤音	和田 俊輔	富野 みのり	邊見 江里子	横手 侑季

第4学年臨床実習

(2022/11/21 開始：2023/4/1 実習済班)

5班	清水 宏峻	永井 魁	的場 祐一郎	加藤 真恵	倉田 理央	
6班	河渕 敏輝	河野 颯次郎	三角 拓弥	公文 亜純	中村 優花	
7班	篠田 大河	丸石 史温	山内 留佳	井奥 詩穂	森川 亜澄	
8班	越智 晴永	廣井 啓太郎	藤田 貴大	栗栖 琴恵	清水 愛花	
9班	奥田 大二郎	衣笠 右鏡	土居 幸太郎	中島 咲	中西 唯子	
10班	下地 俊輔	堀井 優貴	八木 達哉	歌野原 菜々子	村上 静郁	
11班	兼松 和寿	榊原 裕人	中嶋 勇木	灘野 愛唯	野村 珠優	
12班	徳永 翔	西村 輝	益田 謙志郎	加来 竜船	白井 琳久	浜野 すすは

・ 地域医療は大変そうである	97.0%	93.7%	0.257
・ 地域医療には夢がある	65.3%	77.9%	0.012
・ 地域医療を担う自信がある	29.7%	38.9%	0.033
・ 将来、愛媛の地域医療に関わりたい。	51.5%	58.9%	0.346
・ 地域医療にはやりがいがありそうだ	88.1%	95.8%	0.021
・ 地域医療に従事すると医療の進歩に遅れる	36.6%	30.5%	0.162
・ 総合医になりたい	47.5%	49.5%	0.847
・ 専門医になりたい	81.2%	88.4%	0.071
・ 診療所で働きたい	31.7%	33.7%	0.371
・ 地域中核病院で働きたい	72.3%	86.3%	0.003
・ ライフスタイルを大事に働きたい	80.2%	87.4%	0.034
・ 地域を担う知識を認識している	16.8%	67.4%	<0.001
・ 将来の働き場所 田舎	19.6%	21.1%	0.527

愛媛県主催医学生サマーセミナー

日 時：2022年8月20日(土)

12:10～16:30

会 場：Web 開催

今回の医学生サマーセミナーは、愛媛大学地域枠、自治医科大学、産業医科大学、富山大学、山梨大学、滋賀医科大学、東北大学の医学生、総勢39名が参加しての開催でした。本来なら夏季は地域の医療現場での活動や懇親会を通しての交流が行われる予定でしたが、今年もWeb会議方式で代用させていただきました。

最初はランチョンセミナーとして、愛媛大学医学部附属病院総合診療科助教の菊池明日香先生から先生のお得意分野である「コミュニケーションを学ぼう：やさしい結果の伝え方」ということでお話しいただきました。検査結果などを伝える際に患者さんがきちんと理解しているか、どのような解釈をしているかを確認しながら伝えることの重要性についてわかりやすく説明いただきました。

次は、地域医療学講座助教の二宮大輔先生の司会による「地域枠と自治医大卒業生による初期研修医の現状報告」と題してご講演をいただきました。各先生が、それぞれの研修病院で充実した研修生活がおこなわれている様子や学生時代に何を準備しておけばいいかなど医学生にとって非常に参考になるお話をいただきました。

次の講演では、愛媛県立中央病院総合診療部長の杉山圭三先生を司会として愛媛県今治市と久万高原町、西予市の行政官と病院の院長先生より地域の特徴と魅力などについて現状報告と将来の構想をお話いただきました。今治市はタオル産業やしまなみ海道などの観光資源の豊富な所、久万高原町は林業農家の多く、避暑地として有名であり、さらに西予市はジオパークに認定された地質学的にも学術価値の高い風光明媚なところ。各講師から少子・高齢化社会における様々な課題に取り組みを紹介いただきました。その後、愛媛県立南宇和病院内科部長の三瀬 順一先生を司会として公益財団法人正光会御荘診療所所長の長野 敏宏先生から「愛南町における精神医療保健福祉と地域づくりの試行錯誤」と題して、精神科の患者さんを中心とした地域包括ケア活動についてお話いただきました。患者さんの入院を廃止し、地域で生活していくことを支

1. 日 程

○日 時：令和4年8月20日(土) 12:10～16:30

○会 場：WEB開催 (Cisco Webex)

○スケジュール：

時 間	内 容
11:45～	WEB会場入室
12:10～12:50 (40分)	ランチョンセミナー（各自昼食を食べながら） テーマ：「コミュニケーションを学ぼう：やさしい結果の伝え方」 愛媛大学医学部附属病院総合診療科助教 菊池 明日香先生
12:50～12:55 (5分)	休 憩
12:55～13:00 (5分)	事務連絡・アンケートツールの説明
13:00～13:05 (5分)	開会挨拶 愛媛大学医学部地域医療学講座教授 川本 龍一先生
13:05～13:30 (25分)	初期研修医の現状報告 司会 愛媛大学医学部地域医療学講座助教 二宮 大輔先生 ・自治医大卒業生 ・愛媛大学地域枠卒業生
13:30～14:40 (70分)	地域医療の現状 行政と病院からの紹介 司会 愛媛県立中央病院総合診療部長 杉山 圭三先生 ・今治市 愛媛県立今治病院 ・久万高原町 久万高原町立病院 ・西予市 西予市立西予市民病院
14:40～14:50 (10分)	休 憩
14:50～15:20 (30分)	特別講演 司会 愛媛県立南宇和病院内科部長（地域包括医療センター長） 三瀬 順一先生 テーマ：「確認中」 公益財団法人正光会御荘診療所長 長野 敏宏先生
15:20～16:25 (65分)	学生発表 「地域医療で、将来こんなことがしたい」 課題説明 愛媛大学医学部地域医療学講座教授 川本 龍一先生
16:25～16:30 (5分)	閉会挨拶 愛媛大学医学部附属病院地域医療支援センター長 高田 清式先生

える仕組みについて地域をあげての取り組みを紹介されました。すでに世界からも注目されている取り組みであり、学生も非常に感銘を受ける内容でした。

ワークショップはできませんでしたが、学生には「地域医療で、将来こんなことがしたい」をテーマに各自1分ほどで述べてもらいました。「地域に溶け込み、患者さんの身近な存在として活動したい」、「在宅医療が行いたい」、「終末期医療に携わりたい」、「病気全般を診れる医師になりたい」などプライマリ・ケアの理念に合った思いを多くの学生が抱いていました。最後に、愛媛大学医学部附属病院地域医療支援センター長の高田 清式先生からご挨拶をいただきました。その中で、愛媛大学地域枠や自治医大卒業生などのキャリア支援についてお話いただきました。



サマーセミナー 優秀レポート受賞者

(愛媛大学) 越智 綾乃 富岡 珠里 甲斐 智敬

(自治医科大学) 谷本 恵

(富山大学) 田中 花奈実

愛媛大学医学部附属病院総合診療科外来

総合診療科助教 菊池 明日香

2016年に愛媛大学医学部附属病院に総合診療科が発足し早6年が過ぎようとしています。診療において専門科の先生方にバックアップ頂けることは非常に心強く、また有り難く思っております。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

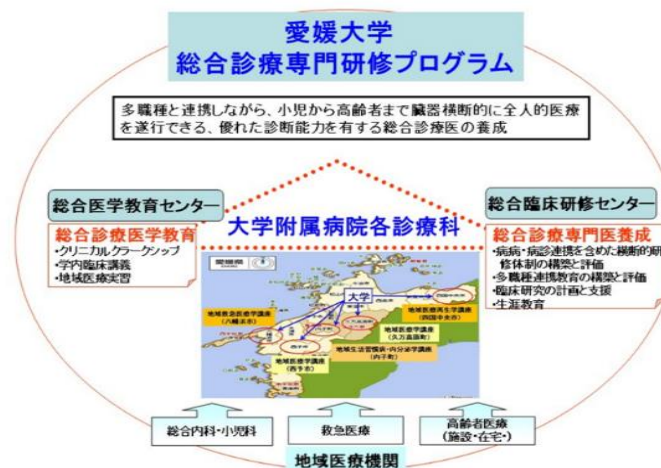
この1年はCOVID-19の流行、蔓延に伴い、ワクチン接種あるいは感染後に多彩な症状を訴え、紹介される患者さんを多く経験させて頂きました。専門家の先生方のご協力のもと、適切に除外診断を行い、患者さんに対応できたのではないかと考えています。診断後も他科連携をとりつつ患者さんの症状緩和を試みる診療が主要となり、あらためて診療科の連携の重要性を痛感した次第です。

もともと総合診療科を訪れる患者さんの主訴は非常に多彩でした。中でも不明熱や全身倦怠感、そして身体痛を主訴に来院される方が多くを占めていました。外来での精査で、感染症、膠原病、悪性疾患、内分泌疾患、筋骨格疾患など診断に至る場合もありますが、一方で器質的な異常が無いにもかかわらず症状が継続する、といった患者さんも一定数存在します。そのような患者さんは多くの場合、当科受診前に複数の医療機関をすでに受診され、異常が無いとの評価を受けていることが多い印象です。ただ当科では器質的な異常がない場合も、本人の苦痛や悩みを丁寧に聴取し、患者さんの生活環境、社会背景に潜む問題を言語化するよう継続的に支持するといった介入を継続して実践することが多く、そのような対応により症状が消失する場合があります。全人的医療の提供を目標に日々邁進しております。

今後も専門科の先生方のお力添えを頂くことが多いかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

外来診療表

月	火	水	木	金
菊池 明日香	二宮 大輔	菊池 明日香	川本 龍一	熊木 天児



総合診療科

－ 地域を舞台に学ぶ Enjoy learning medicine in your community ! －

① 総合診療科とは？ What is Diagnostic and General Medicine?

総合診療科とは、専門化・細分化しすぎた現代医療の中で、全人的に人を捉え特定の臓器や疾患に限定せず多面的に診療を行う部門です。また、外来初診の「症状」のみの患者に迅速かつ適切に「診断」をつける科でもあります。

地域における高齢化やそれに伴う疾病の複雑化、要介護者の増加、生活習慣病の増加等、国民を取り巻く健康問題は近年益々多様化しています。このような現状のなか地域住民のニーズには疾病の診療にとどまらず、家族・職場・地域を視野に入れた幅広い医療活動が強く求められています。総合診療科では地域に根付いた教育と研究、診療活動を行う総合診療専門医の育成を目指しています。

② プログラムの目的と特徴 What you can learn are...

● 研修場所について where to practice ?

主な研修場所は地域における救急を含む一次/二次医療を担当する一般病院です。紹介に片寄ることなく、初診を含め広く外来受診・入院を受け入れています。救急を含む common disease や common problem を十分に経験する機会を保障しています。臓器別専門病棟でなく混合病棟での研修で学ぶため、指導医も臓器別専門医として指導をするだけでなく、総合医として各科研修期間を一貫して指導にあたります。

患者の諸問題から出発して学習をすすめる問題指向型学習 Problem-based Learning を行いやすい環境を保障しています。

● 地域医療と多職種連携 Rural medicine / Community-Based integrated care system

いずれの研修病院も地域医療を担ってきた歴史をもち、往診活動、保健予防活動などを展開しています。病棟医療だけでなく様々なフィールドにおける研修が可能であり地域の保健・医療・福祉サービスの理解など、プライマリ・ケアの視点を身につけるのに適した環境を保障しています。

医師カンファレンスだけでなく各種メディカルスタッフの参加するケースカンファレンスを定期的に行なっており、各種スタッフと協力して医療を行うチーム医療の姿勢を身に付けるのに適した環境を保障しています。

● 研修医の先生を大切に育てます。学習環境も整備しています。

研修医自身のプログラム実践への関与が可能です。屋根瓦方式を取り入れており上級医とともに学ぶことが可能です。研修医が精神的、身体的に健康な状態でかつ経済的余裕をもって研修に専念できるように、適切な休暇・給料を保障しています。Up to date[©]の使用、大学のネットワーク環境を利用した文献検索が可能であり自己学習や EBM を実践できる環境を保障しています。

補足) 当プログラムでは、臨床研修を修了した3年目の医師向け

「総合診療科専門研修コース」と臨床経験5年以上の

「地域医療生涯研修コース」を用意しています。



③ 経験目標 What is the goal of your training ?

地域医療を担う医師には、一般的な疾患の診断と治療、慢性疾患の管理、急性疾患の対応、訪問診療など在宅医療や介護保険への関わり、疾病予防（健康診断、予防医学）学校医や産業医活動など多岐にわたる対応が求められます。地域が異なれば住民のニーズも異なります。当プログラムでは、あらゆる地域のあらゆる患者に対し、全人的な医療を提供できる総合診療医・家庭としての技能の習得を目指しています。プログラムを修了した暁には、医師は地域住民と患者のニーズに的確に応え、合理的で温かな信頼される保健医療サービスを自ら提供できるようになり、幅広い分野の人々と

協働できる医師へと成長することが期待されます。

④ 指導医と指導体制 Staff Introduction

- 川本龍一（教授：日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医、日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本老年医学会専門医・指導医、日本糖尿病学会専門医・指導医、日本超音波医学会専門医・指導医、米国内科学会上級会員、厚生労働省指定卒後臨床研修指導医）
- 熊木天児（准教授：日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医、日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本消化器病学会専門医、日本肝臓学会専門医、厚生労働省指定卒後臨床研修指導医）
- 二宮大輔（助教：日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医、日本内科学会認定医）
- 菊池明日香（助教：日本プライマリケア連合学会 所属 総合診療科 専攻医）



（学会発表での様子）

⑤ 研修に関する行事 Daily schedule

	月	火	水	木	金
AM	外来・病棟	外来・病棟	外来・病棟	訪問診療	外来・病棟
PM	抄読会	病棟カンファ 褥瘡回診	画像勉強会 健康教室	地域連携 カンファ	病棟カンファ 総回診

- ・学会発表 年1回以上
- ・原著論文作成
- ・外部研修会への参加
- ・卒前教育（学生さんの指導にも携われることができます）

⑥ 新専門研修プログラム New Board Certificated General Practitioner

1・2年目 3年目 4年目 5年目

総合診療科 専門研修プログラム		総合診療科専門医 家庭医療専門医
初期臨床研修	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合診療 I（12ヶ月） ● 総合診療 II（6ヶ月） ● 内科ローテート（12ヶ月） ● 救急科ローテート（3ヶ月） ● 小児科ローテート（3ヶ月） 	
臨床研修病院	地域中核病院・地方病院・診療所 その他(大学、市中病院、サテライト施設)	



⑦ 専門研修終了後 After you finished the program...

個人の希望に応じて、愛媛大学の関連病院での勤務、大学院進学が可能です。

⑧ 専門研修の問い合わせ先 Feel free to contact us !!

愛媛大学医学部附属病院総合診療科（地域医療学講座）下記 HP よりお気軽にお問い合わせください。

<https://www.m.ehime-u.ac.jp/school/community.med/>

Tel: 0894-72-0180 Fax: 0894-72-0938

初期研修

昨年と同様に地域医療学講座のメンバーが外来診療や当直などを通してサテライトセンターで診療支援を行っています。サテライト化により大学よりの研修医が徐々にではありますが増えています。

初期臨床研修 2年目の地域医療研修の感想

青野研修医 (2022/05/06-27)

治療方針や入院から退院までの一連の流れを経験することができ、とてもよい研修となりました。外来や救急対応をたくさん経験でき、どういった対応をとるべきか、優先順位は何かを学びました。病院外での研修が少なかったのが、少し残念でしたがそのぶん病棟の患者さんをしっかり診ることができました。大学病院では経験できない症例をたくさん経験し、エコー検査や内視鏡も積極的にさせていただき、大変勉強になりました。丁寧にご指導いただきありがとうございました。

俊成研修医 (2022/06/27-07/22)

病棟管理、外来、健診、訪問診療など様々な形式での診察を経験しました。疾患だけでなく、患者さんの生活・家族背景、また介護保険サービスとの連携など、全人的な診療を学ぶという目標がありましたが、先生方、スタッフのみなさんに熱心にご指導いただき大変学びの多い研修となりました。短い期間でしたがありがとうございました。

畑研修医 (2022/06/13-08/05)

外来研修の機会が多く、経験を積むことができました。また、病棟でも指導医とペアで方針決定を行い、足りない点などすぐにフィードバックを受けられ、困ったことがあれば相談できる体制にありました。スタッフの皆様には、慣れない点も多くご迷惑をおかけしたかと思いますが、いろいろとご対応いただきありがとうございました。この経験を活かし、今後も邁進してまいります。二ヶ月間、ありがとうございました。

小阪研修医 (2022/07/25-08/19)

訪問診療、診療車、外来、病棟など様々な形で地域医療に携わることができました。多くの症例を担当させていただき、大変勉強になりました。患者さんの背景を理解し、医療だけでなく多面的な側面からサポートする大切さを学びました。日々、自分の力不足を感じておりましたが熱心にご指導いただきありがとうございました。今後も野村病院での経験を活かしていこうと思います。一ヶ月間ありがとうございました。

横関研修医 (2022/12/05-2023/02/02)

普段は大学病院で研修中のため、退院後の先を考えることがあまりなかったのですが、ケアカンファなどで様々な職種、家族と一緒に今後の方針を考え、より身近に患者さんのことを感じることができました。医療ではない部分を含めて、考え支えていく、ちょっとした気遣いが案外大切なことに繋がっていくのだと感じました。貴重な2ヶ月を愛媛で過ごすことができ、楽しかったです。ありがとうございました。

岡田研修医（2023/01/10-02/03）

一ヶ月間、お世話になりました。野村病院での仕事は、これまで見てきた医師の仕事に加え、訪問診療や診療車での診察など非常に多岐に渡ると感じました。ご家族への病状説明、患者さんの状態把握や管理など、ひとりの医師として仕事を任せていただき、緊張感を持って勤務することができました。総合診療がどのようなものか少しわかった気がしました。先生方の丁寧な指導、スタッフの皆さんにも親切に対応していただき充実した研修でした。ありがとうございました。



論文名：高尿酸血症は男性および女性の全死因死亡率と関連する：

日本の地域在住者を対象とした調査から

要約

【背景と目的】

高尿酸血症は心血管疾患の主要なリスク因子のひとつで、高血圧症、糖尿病、慢性腎臓病などの疾患との関連が報告されている。しかしながら、高尿酸血症と全死因死亡率の関連については、未だ議論の余地があるため、十分な症例数と追跡期間をもったコホート研究のデータを活用し、潜在的な交絡要因を補正した解析が必要である。本研究では、日本人の地域在住者を対象に、高尿酸血症が全死因死亡率に関連するかを検討した。

【方法】

2002年（コホート1）と2014年（コホート2）より愛媛県西予市で実施された、野村コホート研究に参加し、年次健康診断を受け、追跡調査を完遂し得た男性1,573人（63±14歳）女性1,980人（65±12歳）を対象とした。血清尿酸値（Serum Uric Acid: SUA）の基準値を男性は3.5~8.5mg/dL、女性は3.0~7.5mg/dLとした。住民基本台帳を参照して死亡を同定した。統計解析はCox比例ハザードモデルを用いて、年齢、体格、喫煙習慣、飲酒習慣、心血管疾患（Cardiovascular Disease: CVD）の既往、高血圧症、脂質異常症、肝障害、糖尿病を交絡因子として補正を行いハザード比（Hazard Ratio: HR）を推定した。本研究は、参加者全員の書面によるインフォームドコンセントを得ており、附属病院臨床研究倫理審査委員会の承認を得ている（承認番号：1903018）。

【結果】

調査対象となった3,553人のうち、905人（25.5%）の死亡が確認された（男性473人；女性432人）。Kaplan-Meier曲線で、女性では高尿酸血症群、男性では低尿酸血症群で累積生存率が有意に低かった。ベースラインSUA値1mg/dL増加時の全死因死亡率のHRで、男性ではSUA≥6mg/dL（HR:1.25、95%CI:1.07-1.47）、女性ではSUA≥5mg/dL（HR:1.27、95%CI:1.03-1.58）の群でHRの上昇を認めた。基準値群（男性:3.5≤SUA<8.5mg/dL；女性:3.0≤SUA<7.5mg/dL）、低尿酸血症（男性:SUA<3.5mg/dL、女性:SUA<3.0mg/dL）と高尿酸血症群（男性:SUA≥8.5mg/dL、女性:SUA≥7.5mg/dL）の3群で比較した場合、多変量モデルにおいて、男性（HR:1.67、95%CI:1.06-2.63）、女性（HR:2.17、95%CI:1.20-3.94）で、いずれも高尿酸血症群でHRの上昇を認めた。感度分析として、年齢（65歳未満、65歳以上）、Body Mass Index: BMI（25未満、25kg/m²以上）、CVD既往歴、慢性腎臓病（eGFR<60mL/min/1.73m²、eGFR≥60mL/min/1.73m²）、SUA降下薬使用の有無、死亡までの時間（3年未満、3年以上）によって層別化して解析したところ、3年以上生存した群では、高尿酸血症と全死因死亡率の間に有意な正の関連があることが確認された。

【結論】

本研究では、3,553人を対象とした長期前向きコホート研究を実施し、日本人地域在住者において、ベースライン時での高尿酸血症（男性:SUA≥8.5mg/dL、女性:SUA≥7.5mg/dL）は、交絡要因による補正後も有意に全死因死亡率を増加させることを解明した。



業 績

【原著】

Kawamoto R, Kikuchi A, Akase T, Ninomiya D, Tokumoto Y, Kumagi T.

Association between alanine aminotransferase and all-cause mortality rate: Findings from a study on Japanese community-dwelling individuals.

J Clin Lab Anal. 2022 May;36(5):e24445.

Kumon H, Miyake Y, Yoshino Y, Iga JI, Tanaka K, Senba H, Kimura E, Higaki T, Matsuura B, Kawamoto R, Ueno SI.

Functional AGXT2 SNP rs37369 Variant Is a Risk Factor for Diabetes Mellitus: Baseline Data From the Aikai Cohort Study in Japan.

Can J Diabetes. 2022 Dec;46(8):829-834.

Miyake Y, Tanaka K, Nagata C, Senba H, Hasebe Y, Miyata T, Higaki T, Kimura E, Matsuura B, Kawamoto R.

Fish and Polyunsaturated Fatty Acid Intake and Carotid Intima-Media Thickness in Japan: the Aikai Cohort Study in Yawatahama, Uchiko, Seiyo, and Ainan.

J Atheroscler Thromb. 2022 Sep 30. d

Kikuchi A, Kawamoto R, Ninomiya D, Kumagi T.

Hyperuricemia is associated with all-cause mortality among males and females: Findings from a study on Japanese community-dwelling individuals.

Metabol Open. 2022 Apr 29;14:100186. doi:

Kawamoto R, Ninomiya D, Kikuchi A, Tokumoto Y, Kumagi T.

Relationship between rural self-efficacy and rural career intent after rural clinical training: a study on medical students in Japan.

BMC Med Educ. 2022 Jun 8;22(1):445.

Kawamoto R, Kikuchi A, Ninomiya D, Kumagi T.

Interactive effect of serum uric acid and handgrip strength on all-cause mortality among Japanese community-dwelling people.

Metabol Open. 2022 Dec 29; 17:100227.

Hirooka M, Tanaka T, Koizumi Y, Yano R, Sunago K, Watanabe T, Yoshida O, Tokumoto Y, Abe M, Hiasa Y.

Measurement of multiple spleen lengths is not necessary for non-invasive prediction of high-risk esophagogastric varices.

Hepatol Res. 2022 Feb;52(2):187-198.

Miyake T, Matsuura B, Furukawa S, Ishihara T, Yoshida O, Miyazaki M, Watanebe K, Shiomi A, Nakaguchi H, Yamamoto Y, Koizumi Y, Tokumoto Y, Hirooka M, Takeshita E, Kumagi T, Abe M, Ikeda Y, Iwata T, Hiasa Y.

Fatty liver with metabolic disorder, such as metabolic dysfunction-associated fatty liver disease, indicates high risk for developing diabetes mellitus.

J Diabetes Investig. 2022 Jul;13(7):1245-1252.

Hirooka M, Koizumi Y, Sunago K, Nakamura Y, Hirooka K, Watanabe T, Yoshida O, Tokumoto Y, Abe M, Hiasa Y.

Efficacy of B-mode ultrasound-based attenuation for the diagnosis of hepatic steatosis: a systematic review/meta-analysis.

J Med Ultrason (2001). 2022 Apr;49(2):199-210.

Miyake T, Yoshida O, Matsuura B, Furukawa S, Hirooka M, Abe M, Tokumoto Y, Koizumi Y, Watanabe T, Takeshita E, Sunago K, Yukimoto A, Watanabe K, Miyazaki M, Kanzaki S, Nakaguchi H, Koizumi M, Yamamoto Y, Kumagi T, Hiasa Y.

Additional Effect of Luseogliflozin on Semaglutide in Nonalcoholic Steatohepatitis Complicated by Type 2 Diabetes Mellitus: An Open-Label, Randomized, Parallel-Group Study.

Diabetes Ther. 2022 May;13(5):1083-1096.

Todo Y, Miyake T, Furukawa S, Matsuura B, Ishihara T, Miyazaki M, Shiomi A, Nakaguchi H, Kanzaki S, Yamamoto Y, Koizumi Y, Yoshida O, Tokumoto Y, Hirooka M, Takeshita E, Kumagi T, Ikeda Y, Abe M, Iwata T, Hiasa Y.

Combined evaluation of Fibrosis-4 index and fatty liver for stratifying the risk for diabetes mellitus.

J Diabetes Investig. 2022 Sep;13(9):1577-1584.

Hirooka M, Koizumi Y, Yano R, Nakamura Y, Sunago K, Yukimoto A, Watanabe T, Yoshida O, Tokumoto Y, Abe M, Hiasa Y.

Cisterna chyli as an optimal marker of tolvaptan response in severe cirrhotic ascites.

Sci Rep. 2022 May 17;12(1):8124.

Hirooka M, Koizumi Y, Nakamura Y, Yano R, Okazaki Y, Sunago K, Imai Y, Watanabe T, Yoshida O, Tokumoto Y, Abe M, Hiasa Y.

Spleen stiffness in patients with chronic liver disease evaluated by 2-D shear wave elastography with ultrasound multiparametric imaging.

Hepatol Res. 2023 Feb;53(2):93-103.

Miyake T, Furukawa S, Matsuura B, Yoshida O, Miyazaki M, Shiomi A, Kanzaki S, Nakaguchi H, Sunago K, Nakamura Y, Imai Y, Watanabe T, Yamamoto Y, Koizumi Y, Tokumoto Y, Hirooka M, Kumagi T, Abe M, Hiasa Y.

Plasma Fatty Acid Composition Is Associated with Histological Findings of Nonalcoholic Steatohepatitis.

Biomedicines. 2022 Oct 12;10(10):2540.

Yoshida O, Akbar SMF, Imai Y, Sanada T, Tsukiyama-Kohara K, Miyazaki T, Kamishita T, Miyake T, Tokumoto Y, Hikita H, Tsuge M, Shimizu M, Al Mahtab M, Aguilar JC, Guillen G, Kohara M, Hiasa Y.

Intranasal therapeutic vaccine containing HBsAg and HBcAg for patients with chronic hepatitis B; 18 months follow-up results of phase IIa clinical study

Hepatol Res. 2022 Nov 18. Online ahead of print.

山本 安則、白石 佳奈、沼田 結希、丹下 和洋、徳本 良雄、竹下 英次、阿部 雅則、池田 宜央、日浅 陽一

高齢早期胃癌・内視鏡的非治療切除例における低骨格筋量と予後の関連

日本高齢消化器病学会誌 2022; 24: 66-74.

遠藤 萌、川本 龍一、熊木 天児、徳本 良雄、二宮 大輔、菊池 明日香.

若い世代の人々の理想の看取りと死に関する意識調査.

日本プライマリ・ケア連合学会四国支部論文集 2022 ; 15 : 15-18.

【症例報告】

中村 由子、徳本 良雄、矢野 怜、砂金 光太郎、行本 敦、田中 孝明、渡辺 崇夫、小泉 洋平、吉田 理、廣岡 昌史、竹下 英次、阿部 雅則、三好 賢一、松浦 文三、日浅 陽一

血栓性微小血管障害症を合併したアルコール性肝硬変の一例

肝臓 63: 473-481, 2022.

八木 専、玉井 淳一郎、渡辺 崇夫、吉田 理、徳本 良雄、阿部 雅則、村上 主樹、佐藤 真、新居田 一貴、宮本 裕也、梅岡 二美、村上 英広、沖田 俊司、宮岡 弘明、岡田 武志、日浅 陽一

COVID19 ワクチン投与後に自己免疫性肝炎が顕在化した 1 例

肝臓 63: 491-499, 2022.

【総説】

徳本 良雄、日浅 陽一

薬物性肝障害(非免疫関連)の診断と治療

肝臓クリニカルアップデート 7: 147-153, 2022.

小泉 洋平、廣岡 昌史、吉田 理、徳本 良雄、阿部 雅則、日浅 陽一

肝硬変による 2 次性サルコペニアの進行予防における脾臓治療の可能性

肝胆膵 85: 173-177, 2022.

徳本 良雄、日浅 陽一

非アルコール性脂肪肝炎との鑑別が困難であった自己免疫性肝炎

日本医事新報 5137: 10-11, 2022.

小泉 洋平、廣岡 昌史、吉田 理、徳本 良雄、阿部 雅則、日浅 陽一

びまん性肝疾患(線維化) エラストグラフィ b.Real-time Tissue Elastography(RTE)

臨床消化器内科 37: 1547-1551, 2022.

【ガイドライン】

名越 澄子、赤羽 たけみ、小木曾 智美、坂牧 僚、徳本 良雄、華井 竜徳、西口 修平、小川 浩司、川口 巧、神田 達郎、西川 浩樹、波多野 悦朗

日本高齢消化器病学会 高齢者肝硬変診療ガイドライン(解説)

日本高齢消化器病学会誌 Supplement:1-55.

【学会発表】

第 25 回日本病態栄養学会年次学術集会 (2022/01/28~30、京都)

多発性硬化症の褥瘡悪化患者に対し多職種が連携し在宅管理に繋げた 1 症例

井上 可奈子、永井 祥子、竹島 美香、久保 みゆ、嶋崎 珠、河野 友美、
河道 咲良、久高 ほたる、高須賀 姫乃、山田 佐奈江、利光 久美子、三宅 映己、
高田 裕介、宮下 智尋、久保 苑子、松浦 文三、阿部 雅則、日浅 陽一、
徳本 良雄、杉本 はるみ、褥瘡対策チーム

第 24 回日本病院総合診療医学会総会（2022/02/26～27、東京都、Web 開催）

日本の医学生における総合診療志向は地域医療実習後の地方での地域医療に対するキャリア意向と関係している

川本 龍一、菊池 明日香、二宮 大輔、熊木 天児

第 119 回日本内科学会総会・講演会（2022/04/15～17、京都）

免疫チェックポイント阻害薬による薬物性肝障害の特徴

砂金 光太郎、阿部 雅則、行本 敦、中村 由子、渡辺 崇夫、小泉 洋平、
吉田 理、徳本 良雄、廣岡 昌史、日浅 陽一

第 108 回日本消化器病学会総会（2022/04/21～23、東京）

シンポジウム 12 C 型肝炎:今後の課題と対策

SVR 後の食道胃静脈瘤増悪に寄与する因子の検討

渡辺 崇夫、徳本 良雄、日浅 陽一

ワークショップ 13 病態に基づく肝疾患医療連携の今後

肝疾患患者の就労状況と両立支援の認知度調査

徳本 良雄、渡辺 崇夫、日浅 陽一

第 65 回日本糖尿病学会総会（2022/05/12～14、神戸市）

地域住民女性の血清総ビリルビンはメタボリックシンドローム発症を予測しうる

川本 龍一、菊池 明日香、二宮 大輔

日本超音波医学会第 95 回学術集会（2022/05/20～22 名古屋）

シンポジウム 消化器 1 肝がん診断・治療における超音波の役割と進歩

マイクロ波凝固術を有効に行うための超音波技術の活用

廣岡 昌史、小泉 洋平、岡崎 雄貴、矢野 怜、中村 由子、徳本 良雄、古川 慎哉、
阿部 雅則、日浅 陽一

シンポジウム 消化器 2 肝疾患におけるエラストグラフィの臨床的役割

MAFLD 症例における Elastography の有用性の検討

小泉 洋平、廣岡 昌史、中村 由子、砂金 光太郎、行本 敦、渡辺 崇夫、吉田 理、
徳本 良雄、阿部 雅則、日浅 陽一

パネルディスカッション 消化器3 肝臓:超音波像の成り立ちと解釈:病理との対応
慢性肝疾患において肝硬度測定値に影響を与える組織因子の検討

廣岡 昌史、小泉 洋平、矢野 怜、中村 由子、石原 暢、徳本 良雄、古川 慎哉、
阿部 雅則、日浅 陽一

ワークショップ 消化器6 腹部における超音波技術の進歩
超音波診断・治療における US-fusion imaging の活用

廣岡 昌史、小泉 洋平、矢野 怜、中村 由子、石原 暢、徳本 良雄、古川 慎哉、
阿部 雅則、日浅 陽一

多発肝転移を伴った胃神経内分泌細胞癌の1例

丹下 正章、小泉 洋平、廣岡 昌史、砂金 光太郎、行本 敦、中村 由子、吉田 理、
徳本 良雄、阿部 雅則、日浅 陽一

第58回日本肝臓学会総会（2022/06/02～03、横浜）

シンポジウム1 ウイルス性肝疾患の完全克服とマネジメント

SVR後の食道胃静脈瘤増悪・改善を予測可能なスコアリングシステムの作成

渡辺 崇夫、徳本 良雄、日浅 陽一

当院における肝炎医療コーディネーターを活用した肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業への取り組み

徳本 良雄、柴田 沙紀、今井 祐輔、岡崎 雄貴、砂金 光太郎、行本 敦、中村 由子、渡辺 崇夫、小泉 洋平、吉田 理、廣岡 昌史、阿部 雅則、日浅 陽一

免疫チェックポイント阻害薬による肝障害と薬物性肝障害の臨床的・病理学的特徴の相違

砂金 光太郎、阿部 雅則、岡崎 雄貴、行本 敦、中村 由子、渡辺 崇夫、小泉 洋平、吉田 理、徳本 良雄、廣岡 昌史、日浅 陽一

第64回日本老年医学会学術集会（2022/06/02～06/04、大阪市）

地域在住者における握力と大腿周囲径は死亡の予測因子である

川本 龍一、二宮 大輔、楠木 智

第 128 回日本消化器病学会四国支部例会（2022/06/18～19、松山）

肝表面像を観察し得た Dubin-Johnson 症候群合併 C 型慢性肝炎の 1 例

岡崎 雄貴、徳本 良雄、渡辺 崇夫、砂金 光太郎、今井 祐輔、中村 由子、
石原 暢、小泉 洋平、吉田 理、廣岡 昌史、日浅 陽一

第 24 回日本高齢消化器病学会総会（2022/07/15～16、京都）

シンポジウム 2 高齢者(75 歳以上)の非アルコール性脂肪性肝疾患の現状と課題
当院における高齢者非アルコール性脂肪肝炎の特徴

徳本 良雄、三宅 映己、岡崎 雄貴、砂金 光太郎、今井 祐輔、渡辺 崇夫、吉田
理、廣岡 昌史、阿部 雅則、日浅 陽一

第 18 回消化器病における性差医学・医療研究会（2022/07/15～16、京都）

シンポジウム 2 肝がん診断・治療における超音波の役割と進歩

FAST score と Agile score を用いた NASH/NAFLD 症例の検討

小泉 洋平、廣岡 昌史、矢野 怜、盛田 真、岡崎 雄貴、砂金 光太郎、中村 由子、
今井 祐輔、渡辺 崇夫、吉田 理、徳本 良雄、阿部 雅則、日浅 陽一

第 25 回日本病院総合診療医学会学術総会（2022/08/19～08/20、岩手市、Web 開催）

日本人の地域在住者におけるヘモグロビン値は全死因死亡率と関係している

川本 龍一、菊池 明日香、二宮 大輔、熊木 天児

第 29 回日本門脈圧亢進症学会総会（2022/09/08～09、大阪）

シンポジウム 1 門脈圧亢進症と癌

治療前に HVPG 10mmHg 以上であった局所療法症例の肝予備能変化の検討

廣岡 昌史、小泉 洋平、中村 由子、矢野 怜、岡崎 雄貴、砂金 光太郎、盛田 真、
渡辺 崇夫、吉田 理、竹下 英次、徳本 良雄、阿部 雅則、日浅 陽一

第 29 回日本門脈圧亢進症学会総会（2022/09/08～09、大阪）

バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術後に門脈亢進性肺高血圧症を発症した 1 例

吉田 理、徳本 良雄、岡崎 雄貴、砂金 光太郎、中村 由子、今井 祐輔、渡辺 崇
夫、小泉 洋平、廣岡 昌史、阿部 雅則、小川 晃平、高田 泰次、日浅 陽一

第 29 回日本門脈圧亢進症学会総会（2022/09/08～09、大阪）

超音波 multiparametric image による脾臓硬度と粘性測定

廣岡 昌史、小泉 洋平、岡崎 雄貴、盛田 真、矢野 怜、中村 由子、砂金 光太郎、
今井 祐輔、渡辺 崇夫、吉田 理、徳本 良雄、阿部 雅則、日浅 陽一

APASL Oncology 2022 (2022/09/01~03, Takamatsu)

Workshop 12 Molecular Mechanisms of Liver Fibrosis

Impact on Portal Hypertension in Patients with Cirrhosis Associated with Hepatitis C after
Achieving a Sustained Virologic Response

Yoshio Tokumoto

第 26 回日本肝臓学会大会 (2022/10/27~30、福岡)

パネルディスカッション 5 Acute-on-chronic liver failure(ACLF):わが国の現状と今後の課
題 当科で経験した Acute-on-chronic liver failure(ACLF)症例の検討

岡崎 雄貴、徳本 良雄、日浅 陽一

第 26 回日本肝臓学会大会 (2022/10/27~30、福岡)

ワークショップ 2 C 型肝炎制御下での諸問題と治療戦略

年齢層に応じた SVR 後肝発癌危険因子の検討

渡辺 崇夫、徳本 良雄、日浅 陽一

AASLD The Liver Meeting (2022/11/04-08, Washington DC)

HIGH PROPHYLACTIC CAPACITIES OF NASAL ADMINISTRATIVE HB VACCINE
CONTAINING HBS AND HBC ANTIGEN (CVP-NASVAC) IN HB VACCINE NON-
RESPONDERS

Kana Shiraishi, Osamu Yoshida, Yuki Okazaki, Kotaro Sunago, Yusuke Imai, Yoshiko
Nakamura, Takao Watanabe, Yohei Koizumi, Masashi Hirooka, Yoshio Tokumoto, Masanori
Abe, Sheikh Mohammad Fazle Akbar, Takahiro Sanada, Michinori Kohara, Yoichi Hiasa

AASLD The Liver Meeting (2022/11/04-08, Washington DC)

HBsAg REDUCTION BY RE-TREATMENT OF NASAL ADMINISTRATIVE THERAPEUTIC
VACCINE CONTAINING HBsAg/HBCAG IN CHRONIC HBV INFECTED PATIENTS

Osamu Yoshida, Kana Shiraishi, Takahiro Sanada, Michinori Kohara, Kyoko
Tsukiyama-Kohara, Takashi Miyazaki, Taizou Kamishita, Julio C Aguilar, Gerardo E Guillen,
Yoshio Tokumoto, Sheikh Mohamed Fazle Akbar, Yoichi Hiasa

AASLD The Liver Meeting (2022/11/04-08, Washington DC)

A SIMPLE AND ACCURATE PREDICTION MODEL OF HEPATOCELLULAR CARCINOMA OCCURRENCE AFTER DAA THERAPY USING THE FACTORS AT SVR12

Takao Watanabe, Yoshio Tokumoto, Makoto Morita, Ryo Yano, Yuki Okazaki, Kotaro Sunago, Yoshiko Nakamura, Yusuke Imai, Yohei Koizumi, Osamu Yoshida, Masashi Hirooka, Masanori Abe, Yoichi Hiasa

第 118 回日本消化器病学会四国支部例会（2022/11/19～20、徳島）

合同シンポジウム 2 肝胆膵疾患に対する各施設の取り組みと今後の展望

当院における肝疾患患者の就労状況調査

今井 祐輔、徳本 良雄、日浅 陽一

第 118 回日本消化器病学会四国支部例会（2022/11/19/20、徳島）

肝内門脈-肝静脈短絡路を原因に繰り返す猪瀬型肝性脳症に対して経静脈的シャント塞栓術が著効した一例

中谷 康輔、廣岡 昌史、矢野 怜、盛田 真、岡崎 雄貴、砂金 光太郎、今井 祐輔、中村 由子、渡辺 崇夫、小泉 洋平、吉田 理、徳本 良雄、竹下 英次、阿部 雅則、日浅 陽一

第 22 回日本プライマリ・ケア連合学会四国支部総会（2022/11/20、徳島市、Web 開催）

愛媛県内の医師の偏在と解決策 筆頭演者

吉見 和華、菊池 明日香、二宮 大輔、川本 龍一

都市部の地域医療における医師不足の検討

山田 真由、菊池 明日香、二宮 大輔、川本 龍一、熊木 天児

愛南町の妊婦さんにとって安全で快適な産科医療体制の確立

越智 綾乃、川本 龍一、菊池 明日香、二宮 大輔、徳本 良雄、熊木 天児

喫煙歴有無による年代別予後の検討

大木元 穂香、川本 龍一、二宮 大輔、菊池 明日香、徳本 良雄、熊木 天児

第 44 回日本肝臓学会東部会（2022/11/25～26、仙台）

アブスコパル効果による腫瘍縮小が示唆された肝細胞癌の一例

矢野 怜、廣岡 昌史、盛田 真、岡崎 雄貴、砂金 光太郎、中村 由子、今井 祐輔、渡辺 崇夫、小泉 洋平、吉田 理、徳本 良雄、阿部 雅則、日浅 陽一

第 44 回日本肝臓学会東部会（2022/11/25～26、仙台）

腹腔鏡下肝切除術を施行しえた Fontan 術後肝合併症に伴う肝細胞癌の 1 例

中谷 康輔、小泉 洋平、廣岡 昌史、矢野 怜、盛田 真、岡崎 雄貴、砂金 光太郎、
今井 祐輔、中村 由子、渡辺 崇夫、吉田 理、徳本 良雄、竹下 英次、阿部 雅則、
日浅 陽一

日本内科学会第 127 回四国地方会（2022/12/18、松山）

職域での N,N-ジメチルホルムアミド曝露による薬物性肝障害の 1 例

森田 浩貴、盛田 真、砂金 光太郎、渡辺 崇夫、吉田 理、廣岡 昌史、徳本 良雄、
竹下 英次、阿部 雅則、日浅 陽一

【研究会】

第 23 回愛媛地域医療連携ネットワーク研究会（2022/12/03、東温）

肝疾患の就労を考える

徳本 良雄

【講演会】

第 12 回中四国地域医療フォーラム プレ集会（2022.02.05、島根市 Web 開催）

「地域医療学講座の今後と課題」

川本 龍一

令和 3 年度長寿社会づくり事業研究事業成果審査委員会（2022/03/01、下野市、Web 開催）

山間地域における 生活習慣病に関する研究 地域在住者において 低 LDL コレステロールは すべての原因による死亡率増加 のリスク因子である

川本 龍一、大塚 伸之

愛媛肝疾患フォーラム 2022（2022/03/29、松山）

愛媛県における肝炎診療連携

徳本 良雄

FM 愛媛 : Dr 杉ちゃんのウイークエンドクリニック（2022/04/16、04/23 17:30～18:00、松山市）

「地域医療学講座の活動」

川本 龍一

第 21 回地域病院オンライン見学ワークショップ（2022/05/20、東温市、Web 開催）

西予市野村町と西予市立野村病院の現状報告

川本 龍一



在宅医療の実際を家族の立場になってロールプレイ

菊池 明日香

西予市スポーツクラブ連合会（2022/06/07、西予市）

健康寿命を延ばそう

川本 龍一

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社社内勉強会（2022/06/17、松山市）

地域医療における 多職種との連携活動

川本 龍一

西予市野村病院看護師勉強会（2022/06/29、西予市）

看護における EBM と NBM、研究について

川本 龍一

地域保健医療持論 愛媛県立医療技術大学での講演（2022/07/02、松山市）

「愛媛の地域医療の現状と課題」 地域医療の経験から語る

川本 龍一

愛媛大学公衆衛生特別講義（2022/07/26、東温市、Web 開催）

地域医療における公衆衛生活動

川本 龍一

令和 3 年度地域志向教育研究支援事業（2022/07/07、松山市）

愛媛県医師不足地域におけるコロナ禍の地域医療実習の検討

川本 龍一

愛媛県医師会 ラジオ糖尿病セミナー（2022/07/14、ラジオ南海）

糖尿病と脳卒中

川本 龍一

医農融合公衆衛生学環 臨床疫学概論 (2022/07/19、Web 開催)

地域医療における疫学

川本 龍一

令和4年度愛媛県医学生サマーセミナー (2022/08/21、Web 開催)

患者さんに優しい結果の伝え方

菊池 明日香

「出身地の地域医療を考える」

川本 龍一

愛媛大学医学部看護学科主催在宅生活支援実習 (2022/09/05、西予市)

地域医療とは

川本 龍一

アルコール依存症治療を考える in 愛媛 (2022/09/26、Web 開催)

消化器内科におけるアルコール性関連問題の現状

徳本 良雄

ASKA Liver conference 2022 (2022/10/01、東京)

不顕性肝性脳症の診断・治療

徳本 良雄

ノルバティスファーマー社内講演会 (2022/10/14、松山市)

高血圧と心不全に関する調査

川本 龍一

ウイルス肝炎市民公開講座 in Ehime 2022 (2022/10/22、松山)

愛媛県における肝炎・肝がん患者のサポート体制

徳本 良雄

広島大学医学部：地域医療の総論から各論 (2022/11/17、Web 開催)

地域医療マインド

川本 龍一

持田製薬株式会社社内研修会 (2022/12/02、松山市)

尿酸と動脈硬化に関して

川本 龍一

2022 年度日本肝臓学会肝炎医療コーディネーター研修会 (2022/12/12～27、Web 開催)

肝疾患診療 up date

徳本 良雄

宇和島医師会学術講演会(2022/12/23、宇和島)

肝炎診療の現状と残された課題～拾い上げと診療連携の重要性～

徳本 良雄

【その他】

山間地域における生活習慣病に関する研究

The Foundation for Development of the Community 50th anniversary

川本 龍一

【座長】

川本 龍一

自治医科大学 Clinical seminar in 愛媛 大塚製薬株式会社主催 (2022/02/08、Web 開催)

「高血圧診療に関する最近の話題」

自治医科大学内科学 循環器内科部門准教授 星出 聡先生

2022 年度地域医療学講座共催 地域医療夏季サマーセミナー (2022/08/21、Web 開催)

「医療から見たまちづくりー各参加市町の医療とまちー」

自治医科大学と愛媛大学地域卒学生他

愛媛西予エリアの健康寿命延伸を考える ～自治医科大学関連施設勉強会 第一三共株式会社主催 (2022/10/05、Web 開催)

「骨粗鬆症の治療戦略」

自治医科大学 整形外科准教授 井上 泰一先生

自治医科大学 Clinical seminar in 愛媛 大塚製薬株式会社 (2022/10/17、Web 開催)

「急性心不全の治療について」

愛媛大学大学院医学系研究科 地域救急学医療学講座教授 池田 俊太郎先生

西予市多職種連携地域包括ケア研究会（Web 開催）

老人保健施設「つくし苑」の今後の展望（2022/01/25、西予市）

つくし苑介護福祉士：河野 昌子氏

心肺停止時の一次救命処置（Basic Life Support：BLS）（2022/02/09、西予市）

西予市消防士：平田救命救急士

地域で取り組む食事療法（2022/03/29、西予市）

西予市立野村病院管理栄養士：片山 雪江氏

地域における地域連携室の活動（2022/04/26、西予市）

西予市立野村病院地域連携室長：吉見 達雄氏

地域における病院ケアマネの活動（2022/06/01、西予市）

西予市立野村病院ケアマネージャー：渡辺 結花氏

地域医療における総合診療活動（2022/07/22、西予市）

西予市野村病院後期研修医：渡辺 亮先生

地域で取り組む心療内科（2022/08/31、西予市）

西予市野村病院看護師：大麦 ひとみ氏

地域で取り組むコロナ対策の現状（2022/09/21、西予市）

西予市野村病院副院長：大塚 伸之先生

地域で地域連携の現状（2022/10/16、西予市）

西予市民病院地域連携室：志賀氏

地域で取り組む褥瘡予防 2（2022/11/30、西予市）

西予市野村病院看護師：小田原 恵氏

地域で取り組むフットケア（2022/12/21、西予市）

西予市野村病院看護師：小田原 恵氏

講座関連の研究費

[Ⅰ] 文部科学省 科学研究費

令和元年～令和4年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金・基盤研究C）延長

地域医療実習での地域診断手法の導入による地域志向性の滋養に関する研究

菊池 明日香、川本 龍一、二宮 大輔、熊木 天児

1,500,000 円

令和4年度愛媛大学地域協働教育研究支援事業

愛媛県医師不足地域における多様なニーズに対応できる医師養成のための地域医療実習の導入

川本 龍一、菊池 明日香、二宮 大輔、徳本 良雄、熊木 天児

200,000 円

[Ⅱ] その他 研究助成費

財団法人地域社会振興財団 人生100年時代づくり・地域創生ソフト事業交付金

令和4年度山間地域における生活習慣病に関する研究

川本 龍一、大塚 伸之、二宮 大輔、菊池 明日香

500,000 円

[Ⅲ] その他 研究助成費

糖尿病重症化予防事業

川本 龍一

愛大コホート研究事業

川本 龍一、菊池 明日香、二宮 大輔

その他

【教育活動】

地域医療学講座地域サテライトセンターでの実績

- 初期研修医（地域医療）2022年度：9名
- 後期研修医2022年度（地域医療・総合医後期研修コース）：1名

【主な委員会活動】

大学関係 学内

- 卒後臨床研修管理委員（川本）：2010年度～
- 地域医療支援センター組織運営委員（川本）：2011年度～
- 地域医療推進委員（川本）：2012年度～
- 愛媛大学南予協働センター兼務職：2020年度～
- 総合臨床研修センター運営委員（川本）：2022年度～

大学関係 学外

- 広島大学客員教授（川本）：2010年度～

愛媛県関係

- 愛媛県へき地医療支援計画策定等会議委員（川本）：2005年度～

卒後臨床研修管理委員会関係

- 愛媛県立中央病院卒後臨床研修管理委員（川本）：2007年度～
- 松山赤十字病院卒後臨床研修管理委員（川本）：2011年度～
- 済生会松山病院卒後臨床研修管理委員（川本）：2011年度～
- 松山市民病院卒後臨床研修管理委員（川本）：2011年度～
- 済生会今治病院卒後臨床研修管理委員（川本）：2017年度～

学会

- 日本プライマリ・ケア連合学会評議員（川本）：1999年度～
- 日本老年医学会代議員（川本）：1999年度～
- 日本内科学会四国支部評議員（川本）：2009年度～
- 日本内科学会全国評議員（川本）：2020年度～
- 日本病院総合診療医学会評議員（川本）：2020年度～
- 日本プライマリ・ケア連合学会英文雑誌（JGFM）編集委員（川本）：2020年～

西予市関係

- 西予市立野村病院運営委員（川本）：2009年度～
- 西予市地域医療対策検討委員（川本）：2017年6月～
- 西予市立病院改革推進委員（川本）：2017年8月～
- 西予市立病院地域医療連携システムプロポーザル審査委員（川本）：2020年11月～
- 訪問看護ステーション東宇和運営協議会員（川本）：2005年度～

マスコミ取材

FM 愛媛 : Dr 杉ちゃんのウイークエンドクリニック (2022/04/16、04/23 17:30～18:00、松山市)

「地域医療学講座の活動」



エフナンラジオ : 糖尿病セミナー (2022/07/14、14:10～14:20、松山市、TEL)

「糖尿病と脳血管障害について」



2019年度のもの

編集後記

コロナ禍のおり、多くの事業が中止あるいは変更となり、その代替案として Web 開催が行われています。我々が関係する多くの事業でも例外ではありません。我々の講座の大きな役割の一つである地域医療実習については、各サテライトセンターの存在する各施設のご努力のお陰で滞りなく実施できました。末筆とはなりますが、皆様方のご健康と今後の更なるご活躍をお祈り申し上げます。

編集担当

愛媛県寄附講座

令和 4 年度事業報告書

愛媛大学大学院医学系研究科地域医療学講座

愛媛大学附属病院総合診療科

令和 5 年 6 月発行

問い合わせ先

愛媛大学大学院医学系研究科地域医療学講座

〒791-0295 愛媛県東温市志津川

(代) TEL: 089-964-5111 FAX: 089-960-5131

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 地域サテライトセンター

西予市立野村病院

〒797-1212 愛媛県西予市野村町野村 9-53 番地

TEL: 0894-72-0180 FAX: 0894-72-0938

久万高原町立病院

〒791-1201 愛媛県上浮穴郡久万高原町久万 65 番地

TEL: 0892-21-1120 FAX: 0892-21-1121

愛媛県立南宇和病院

〒798-4131 愛媛県南宇和郡愛南町城辺甲 2433-1

TEL: 0895-72-1231 FAX: 0895-72-5552